

(2) 飛行場予報の精度の問題 synoptic scale で24時間を, meso-scale で9時間を, topo-scale で3時間を対象とする予報の方法を確立する。

(3) レーダーの利用 現在のレーダー網の目的は航空の目的と幾分異なる。将来航空を目的としたレーダーの設置が望ましい。雨を対象とするより雲の分布を対象としたい。

#### 4. 話題提供者 山田直勝

国内航空気象の将来

航空管制上からみた将来問題としては、(1) アルチメ

ーターセッティングの QNH を組織的に決める問題、即ち Terrain Clearance の問題、(2) 国内航空がジェット化された場合の CAT の問題、(3) 航空管制上から要求される気象用レーダー網の在り方、(4) 航空管制のオートメ化に対する気象協力の方式、などの話題提供者があった。終って出席者の討議に入り、主として (1) SST のための高々度解析の調査研究を早急に進めなければならないこと、(2) 航空用の目的のためのレーダー網の設置について、具体的なビジョンを決めることなど活発な討議が行はれて、会を終了した。(上松 清 記)

## IQSY (II)—日本の IQSY 気象計画

### 1. 日本の計画

今年1月から始まったIQSYはすでに第1年の半分を経過したが、日本においても、IGYにおいて経験した種類の観測はIQSYの第1の目的であるIGYとの比較という意味において、年初から実施されている。たとえば、露点ゾンデ・気象電気ゾンデ・オゾン(Dobson分光器による全量及び反転観測)・輻射の他、大型気球による10 mb 観測等が挙げられる。

太陽活動極小期における気象要素や現象の観測結果やその解析を太陽活動極大期に当たったIGYのそれと比較することをIQSYの第1義的目的とするならば、IGYには時期的に準備不充分或は費用の点から主として実験的ベースでしか観測されなかったもので太陽活動と気象現象の関係の究明に重要と思われる種類の観測を世界各国の協同観測の好機として、この機会を利用することはIQSYのもう一つの目的であることは前回にも触れた通りである。たとえば、オゾンゾンデ・輻射ゾンデ・気象ロケットなどがそのよい例である。

日本でも、この趣旨に沿ってIQSYには前述の観測に加えて、オゾンゾンデ・輻射ゾンデ・気象ロケット観測が計画され、開発を推進してきた。オゾンゾンデについてはIGYの頃から、光学式を主として研究所において試作研究が進められてきたが、今年10月頃からIQSY計画の一環として、毎週一回札幌・館野・八丈島・鹿児島においてその観測が開始される予定である。又輻射ゾンデも昨年来、試作実験が進められ、オゾンゾンデとほぼ時を同じくし、同じ規模で観測が開始されよう。両者とも、WGIの特別な期間には観測回数が増加されることになっている。気象ロケットについては、IGYに超高層の物理的観測のために開発された日本のロケット

技術をもとに、小型ロケットによる地上約60 km までの気象観測を目標に気象庁でも一昨年来、IQSY計画の一環としてその実現に努力が払われてきた。その結果、今年7月下旬に鹿児島県内の浦においてMT135ロケットによる超高層の風と気温の測定のためのテストが行なわれた。今後は、できるだけ早く、毎月1回程度の観測により、世界の気象ロケット観測網の一環としての役割りを果たすことにならう。

### 2. 国際比較観測

IGYの直前に、スイスのパイエルンでラジオゾンデの国際比較観測が行なわれたが、IQSYに際しても各種の国際比較観測が計画・実施されている。気象電気ゾンデは日本の高層気象台において、インド・西独・ベルギーと日本のゾンデの間で別個に比較観測が行なわれ、又日米間の比較も米国のフォートモンマウスにおいて行なわれた。オゾンゾンデは今年2月米国のポールダーにおいて日・米・西独・イギリス間において行なわれた。輻射ゾンデも恐らく今年度中に国際比較観測が行なわれるものと予想される。

ロケットについても、比較観測が必要であることは議論の余地はないので、近い将来に計画されるものと考えられる。実際、カナダのGodsonは早期に実施することを主張している。ただ、経費の点で、ゾンデのように簡単には行なえないのが問題である。

### 3. ロケット観測計画

正式に承認されたIQSY計画の中の気象ロケット観測を扱った部分を簡単に紹介すると、

- 1) シノプティックなロケット観測所をすべての地域に設けるためあらゆる努力をなすべきである。
- 2) ロケット観測は最低毎週一回水曜日(RMD)に

行ない、WG I 期間中と特別な現象が発生した時にはもっと頻繁に行なうべきである。

3) I Q S Y 気象用ロケットゾンデ計画において用いられる測器についてのすべての適切な情報はちたいたく公表されるべきことは重要である。

4) ロケット観測によって気象要素の決定のために技術が開発される場合にはその相互比較についての用意がなされることが警告される。

5) 上層大気中のロケット観測を行なうすべての国は印刷形成で、観測した気象情報を出版することを要請される。

以上の内容であるが、I Q S Y には多くの国が気象ロケットゾンデ打ち上げ計画或はその希望を持っている。列挙すると、アフガニスタン・オーストラリア・フラン

ス・インド・イタリー・日本・パキスタン・南アフリカ・英国・米国・ソ連等が現在計画を持ち、その他の国でも参加の加能性がある。これらの計画の多くは当然のことながら、ひかえめな計画に始まり、観測地点の数又はその観測頻度を除々に拡大していくことは明らかである。日本の計画もその意味から着実に発展していくものである。我が国は丁度、高緯度における冬季の非常に傾圧性の強い地域と成層圏における気象要素の2年周期を持つ低緯度の中間に位置しているという観点から、将来の観測所の選定・観測頻度の決定等に考慮が払われるであろう。

I Q S Y に使用される測器の紹介は又別の機会にゆずり、その計画についてだけ簡単に紹介した次第です。

(関口理郎)

### 日本気象学会第13期各担当役員ならびに委員一覧表

- |                 |      |   |           |
|-----------------|------|---|-----------|
| 1. 庶務委員         | 担当理事 | 北岡龍海  | 地区委員 (未定) |
|                 | 同    | 荒井隆夫  |           |
|                 | 同    | 増田善信  |           |
| 2. 会計委員         | 担当理事 | 桜庭信一  |           |
|                 |      | 鈴木 徹, 春田正男  |           |
| 3. 外国関係委員       | 担当理事 | 須田 建  |           |
|                 |      | 竹内清秀  |           |
| 4. 学会連合委員       | 担当理事 | 畠山久尚  |           |
|                 | 同    | 岸保勘三郎   |           |
| 5. 気象集誌編集委員     | 担当理事 | 今井一郎  |           |
|                 |      | 井沢龍夫, 内田英次,   |           |
|                 |      | 竹内清秀, 都田菊郎  |           |
| 6. 天気編集委員       | 担当理事 | 大田正次  |           |
|                 |      | 小野 晃, 岡本雅典,   |           |
|                 |      | 関口理郎, 片山 昭,   |           |
|                 |      | 藤井幸雄, 三崎方郎  |           |
|                 | 地区委員 | 北海道 唐津 進  |           |
|                 |      | 東北 吉田作松   |           |
|                 |      | 関東 正務 章   |           |
|                 |      | 関西 萩谷長男   |           |
|                 |      | 九州 山田三朗   |           |
| 7. 気象研究ノート編集委員  | 担当理事 | 神山恵三  |           |
|                 |      | 根本 修, 蔵重 清,   |           |
|                 |      | 藤本文彦, 荒川昭夫,   |           |
|                 |      | 安藤正次, 竹内衛夫,   |           |
| 8. 講演企画委員       | 担当理事 | 岸保勘三郎   |           |
|                 | 同    | 吉野正敏  |           |
|                 | 同    | 小平信彦  |           |
|                 |      | 朝倉 正, 河村 武,   |           |
|                 |      | 杉本文雄, 竹内清秀  |           |
| 9. 国際学術交流委員     | 担当理事 | 岸保勘三郎   |           |
|                 | 同    | 神山恵三  |           |
|                 | 同    | 小平信彦  |           |
|                 |      | 荒井康男, 磯野良徳,   |           |
|                 |      | 渡辺正夫, 瀬下慶長,   |           |
|                 |      | 当舍万寿夫   |           |
| 10. 長期計画委員      | 担当理事 | 吉野正敏  |           |
|                 | 同    | 正野重方  |           |
|                 | 同    | 増田善信  |           |
|                 | 同    | 今井一郎  |           |
|                 |      | 片山 昭, 吉武素二,   |           |
|                 |      | 松本誠一, 孫野長治,   |           |
|                 |      | 山本義一, 山元龍三郎,  |           |
|                 |      | 磯野謙治, 小倉義光  |           |
| 11. 国際雲物理会議組織委員 |      | 畠山久尚 (委員長), 今井一郎, 岸保勘三郎, 正野重方, 須田 建, 北岡龍海, 桜庭信一, 大谷東平, 孫野長治, 渡辺 浩, 岡田群司, 神原 健, 藤井義之, 小平信彦, 高橋喜彦, 磯野謙治 |           |